

## シリーズ「三重県の川と流域を訪ねる」

### 第1回 員弁川（いなべがわ）編（平成26年5月25日（日）開催）

#### 1. はじめに

川づくり会議みえの設立から10周年経過したことを契機に、県内の主な河川を北から順番に全部！見て歩くシリーズを始めることとしました。第1回目としては、県内で最大の流域面積を持つ二級河川であり、源流部から河口部まで変化に富む姿を見せてくれる員弁川を訪ねることとしました。また、当流域にお住まいで、河川生態に詳しい清水義孝さんにご案内をお願いしました。

#### 2. 員弁川の概要

員弁川は、鈴鹿山脈の御池岳に源を発し、いなべ市、東員町、桑名市、朝日町を流下し、桑名市と川越町を両岸に見ながら伊勢湾に注ぐ二級河川で流域面積265平方キロ、幹川流路延長36キロと三重県管理では最大の河川と言えます。上流部は山地および標高100～200mの水田地帯と丘陵、中・下流部は標高50m程度の水田地帯、最下流部には桑名市の市街地が広がっています。また、上流部の支川で国天然記念物のネコギギが生息するなど、多様な生物相を支える貴重な空間ともなっています。

員弁川は、これまで幾たびもの洪水被害を受けており、員弁川本川及び各支川において河川整備が行われてきましたが、現在は町屋頭首工～藤川合流点付近の区間において河川整備が進められています。

#### 3. 行程

西藤原駅（9:30 集合出発） → 小滝川（砂防工事）見学 → 藤原岳自然科学館（清水義孝さんより説明・見学） → 員弁川源流部（篠立の風穴遠見 ※風穴には入れません） → 三重用水「中里ダム」 → 六把野（ろっばの）井水、三岐鉄道ねじり橋・めがね橋 → 支流“宇賀川”「自然水族館」見学（昼食） → 大社橋付近（川の生物調査（ガサガサ）） → 桑名市街へ → 河口の見学 → 桑名駅 解散

## 4. 勉強会の概要

### ① 藤原岳自然科学館

当館は1974年に藤原岳登山の玄関口の地に開館しましたが、老朽化に伴い2012年に藤原文化センター内に移転しています。館内では、いなべの大地の生き立ちや、藤原岳の四季折々の自然と貴重な動植物を紹介しています。

今回は、当館の職員でもある清水さんから、館内の展示内容について説明を頂きました。



### ② 小滝川砂防事業

藤原岳を源とする溪流の小滝川では、平成10年7月以降、毎年のように土石流が発生しています。これは、①斜面の勾配が急であること、②「さざれ石」と呼ばれるもろい地質であること、③短時間で多量の雨が降ることが原因と考えられています。

平成24年9月17日～18日の豪雨では、最大時間雨量96mm、連続雨量726mmを記録し、土石流が発生しましたが、4基の砂防堰堤と遊砂地により74,000m<sup>3</sup>の土砂を捕捉し、下流の人家への被害を食い止めました。



### ③ 三岐鉄道「めがね橋」「ねじり橋」

三岐鉄道の北勢線は、桑名市の西桑名駅といなべ市の阿下喜駅を結ぶ、延長 20.4 km の鉄道で、住民、学生の重要な足となっています。開通は大正 3 年（1914 年）で、当初、西桑名駅～楚原駅間 14.5 km でした。

「めがね橋」は員弁川支川明智川を、「ねじり橋」は流域の田畑を潤す六把野井水を渡河しています。これらは、大正 5 年（1916 年）竣工で、ともに平成 21 年度土木学会選奨土木遺産に認定されています。当時の土木技術の高さに驚かされます。



六把野井水がとうとうと流れています

三岐鉄道が走ります～♪付近には撮鉄の方がちらほら。

“ねじり” 具合が伝わりますか？見に行かれることをおすすめします！

### ④ 自然水族館

員弁川支川宇賀川の右岸側にある農業用水路の一部を利用・加工し、側面のガラス窓から水中の魚類等の観察ができるようになっています。計画立案に際しては、魚類の生態に詳しい清水さんのノウハウを活かし、「生育～産卵～孵化」の自然なサイクルが繰り返されるように造られています。



たくさんの魚が見られます！  
限りなく自然の環境に近い水族館です。  
面白いですよ♪

## ⑤ ガサガサ調査

東員町の大社橋付近で河川内の生物調査をしました。水量は多くありませんでしたが、橋脚付近では深掘れしているところもありました。水質もきれいとは言えず、石の藻に浮泥が溜まっている状況でした。清水さんの説明によれば、員弁川は中流部で水質が悪化するものの、下流に行くにつれて浄化されていくとのことでした。

参加者全員でタモ網をもって川に入り、水中の生物を探しました。30分程で、希少種のアカザをはじめとする10数種ほどの水生生物が確認できました。清水さんの説明によれば、員弁川はまだ多様な生物相を示しているが、年を追うにしたがって種類が減少する傾向にあるとのことでした。



## ⑥ 員弁川河口部

近鉄線やJR線が員弁川を渡河している付近に三重県企業庁の取水堰「町屋頭首工」があり、そこから下流は海水が混じる汽水域となっています。河口部は干潮時には、広い干潟が現れます。両岸はコンクリートで固められた高潮対策の堤防で、右岸側の埋立地にはLNGタンクの基地などが立ち並んでいる他、最下流部を伊勢湾岸自動車道が横断しています。



頭の上を伊勢湾岸自動車道が走るちょっとすごい河口の景色。それでも川をぬける風がスウ〜ッと気持ち良く感じられました。

## 5. まとめ

好天に恵まれ、駆け足でしたが、約1日をかけて員弁川の源流部から河口部までを観て歩きました。

参加者にお願ひしたアンケートでは、「砂防事業について、今までよく知らなかったが、豪雨の前後の写真を見て、災害の怖さがよくわかった。」「魚類の生態をよく理解した上で作られた自然水族館は素晴らしく、他にもできるとよいと思う。」などの意見を頂いており、それぞれに員弁川の自然の大きさや歴史を満喫して頂けたと思います。

事務局として、久しぶりに訪れた員弁川でした。相変わらずの豊かな自然が残されていましたが、少しずつ劣化が進んでいるように感じられました。

1日を通じて、ご案内を頂きました清水義孝さんに重ねて感謝申し上げます。

(文責 川づくり会議みえ事務局)